学校法人天満学園　中期ビジョン・事業計画　プロジェクト 2025

はじめに

学校法人天満学園は、1935(昭和 10)年に大阪工学校として大阪市北区南森町に創立者、初代校長足立喜三郎により建学の理念「教育は徳なり」を体して教育基本法、学校教育法の理念に則り、徳育を基盤として、自主性、創造性、協調性を尊重し、心身共に健康な人格の育成を目指すことを教育方針として設立されました。

沿　革

1945 (昭和 20)年	大阪大空襲により全校舎施設消失
1947 (昭和 22)年	城北商業学校と統合合併し、翌年、学制改革により大阪天満高等学校に改称
1955 (昭和 30)年	幼稚園を開設
1959 (昭和 34)年	高等学校を大東市諸福に移転、校名を太成高等学校に改称
1984 (昭和 59)年	歯科衛生士養成専門学校を開設
1987 (昭和 62)年	大阪府下で初めての男女共学の経営情報学科の短期大学として、堺市美原区平尾に開学
1998 (平成 10)年	4 年制大学の経営学部(収容定員 480 名)として改組転換
2003 (平成 15)年	人間学部(収容定員 720 名)を開設
2007 (平成 19)年	堺市の私立大学では本学が唯一の看護学部(収容定員 320 名)を開設 看護学部実験実習棟の完成(鉄筋 5 階建て)
2009 (平成 21)年	経営学部経営情報学科を現代ビジネス学科に名称変更
2010 (平成 22)年	学校法人天満学園　足立喜典前理事長先生ご逝去 学校法人天満学園　理事長に足立裕亮就任
2012 (平成 24)年	太成学院大学人間学部を子ども発達学科・健康スポーツ学科・人間心理応用学科に改組
2013 (平成 25)年	太成学院大学高等学校　本館(8 階建)並びに体操練習場完成
2015 (平成 27)年	学校法人天満学園創立 80 周年 記念事業「太成学院大学高等学校新校舎披露式」挙行
2016 (平成 28)年	太成学院大学人間学部人間心理応用学科を心理カウンセリング学科に名称変更

学園全体としては 4 部門で全生徒学生数 2,415 名である(令和 2 年 5 月 1 日現在)

中期ビジョンの骨子

学校教育を取り巻く環境の変化として挙げられるのが、①人口の減少、②地域間における経済状況や経済的格差の拡大、③経済社会のグローバル化の進展、④産業構造の変化(AI、IoT、ビッグデータ、セキュリティ分野の急速な進展など)、⑤就業構造の変化(専門性、創造性の高い高付加価値型の職業への需要増、メンバーシップ型雇用からジョブ型雇用へのシフト、雇用の流動化など)、⑥地方創生の必要の高まり、⑦世界的な学術研究の進展、などがある。

これらの変化を踏まえ、①学習者本位の教育への転換、②教育研究体制として多様性と柔軟性の確保、③教育の質保証と情報公表、④少子化を踏まえた教育機関の規模や地域配置、⑤高等教育機関の役割として多様な機関による多様な教育の提供、⑥高等教育を支える投資としてコストの可視化とあらゆるセクターからの支援の拡充、など検討課題が山積している。

そのようななかで本学園は、基礎的で普遍的な知識・理解と汎用的な技能を持ち、その知識や技能を活用でき、職能的なコミュニケーション力を持ち、自律的に責任ある行動をとれる人材育成をめざし、分野の専門性だけでなく、思考力、判断力、俯瞰力、表現力の基盤の上に、幅広い教養を身に付け、高い公共性・倫理性を保持しつつ、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、論理的思考力を持って、社会を改善していく資質を有することができる教育研究活動をめざす。

基本理念

進学率の上昇とともに、学習のモチベーションが曖昧で、基礎学力にも問題を抱える生徒学生が増加しており、現実と理想のギャップは大きい。そうした状況の下で、本学園は多様化する生徒学生に対して、本学園の教育理念に基づく人間教育・人格の形成をめざす教育研究活動を推進するために、以下の6つの基本理念を掲げる。

1．建学の精神・教育理念の周知と徹底
2．各部門における教育ビジョンの明確化
3．不断の教育改革による学園ブランド力の向上
4．持続発展可能な経営基盤の確立
5．ガバナンス改革とコンプライアンスの徹底
6．地域との共生

持続発展するために

少子化の急減圧力が強まり、政治情勢を含め教育をめぐる環境変化の著しい中で、学校規模や、淘汰の問題は避けて通ることはできないことは明白である。仮に現状言われているように大規模私学から定員が充足され､小規模私学から定員割れしていくとすると､2040年から2050年には、私学は、現在の学生数を確保できるのは、在学生数 3,700 人以上の 140 校までであり、それ以下の規模の大学は在学生がいなくなるという試算もある。ただし、これは単純な数字からだけの試算であり､特色を持ち集まる大学もあれば規模だけで維持できなくなる大学もあることは予測できる。

これから迎える私学の激変時代の幕開けに対して、本学園の教育は、独自性をもって“教える授業から学ぶ授業へ”、“何を学ぶかからどう学ぶのか”、そして、それぞれの生徒学生にそれぞれの学びのサクセスを実感してもらえるような学校づくりを掲げたい。

中期事業計画

中期計画の実効性をあげるためには様々な面で PDCA を徹底する必要がある。今後、時代の変化、社会のニーズを踏まえつつ、本学園の教育理念の具現化をより一層充実したものにしていくために、不断の努力と学園にかかわる教職員一同が、建学の精神のもと心を一つにして推進していきたい。

天満学園

① 資産の有効活用の検討
② 管理運営費の効率化
③ 学園人事、予算執行の適性化

１．太成学院大学

① 運動場用地・駐車場用地の検討および用地取得計画
② 無料シャトルバス運行計画
- 有料化の検討
- 運航計画の検討
- 近鉄バスの乗り入れの検討
- 運航路線の検討

③ 情報関連設備の今後の展望を含めた中期計画

④ 施設設備の老朽化への対応計画を含め充実化の検討
⑤ 教育研究機器等の検討と充実
⑥ 学内環境の整備と充実
⑦ FD、SD 活動の充実と推進
⑧ 教育研究活動の充実と推進
⑨ 外部資金の獲得、補助金の獲得をめざす活動
⑩ 図書館メディアセンターの環境整備

2．太成学院大学高等学校

① 耐震化の対応
・錬成館の南棟の建替えについて(耐震)
・柔道・剣道・温水プールの新設
・図書館棟のリフォームについて
　柔道・剣道場の移転案
② 老朽校舎(耐震基準未充足)の取り壊しについて
・使用目的の変更や新規計画の検討
③ 清滝スポーツキャンパスのバス運行の検討
・施設活用の施策
④ サッカー場(清滝スポーツキャンパス)の今後の利活用計画の検討
⑤ 教育機器・環境の充実
⑥ クラブ活動の充実と課題解決に向けた検討

3．太成学院天満幼稚園

① 園舎 4 階・5 階の活用の検討
② 施設設備の老朽化対応
③ 保育教育機器の充実

4．太成学院大学歯科衛生専門学校

① 専用学生寮(4 階～9 階)の管理運営面の困難化
(夜間警備員の配置に伴う人件費の高騰および施設設備の老朽化による補修・改修工事における資金計画の困難）
② 施設設備の老朽化対応
③ 教育機器の充実